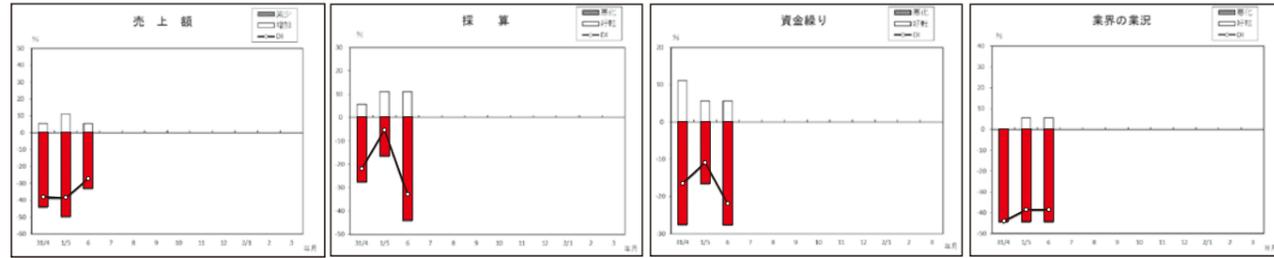


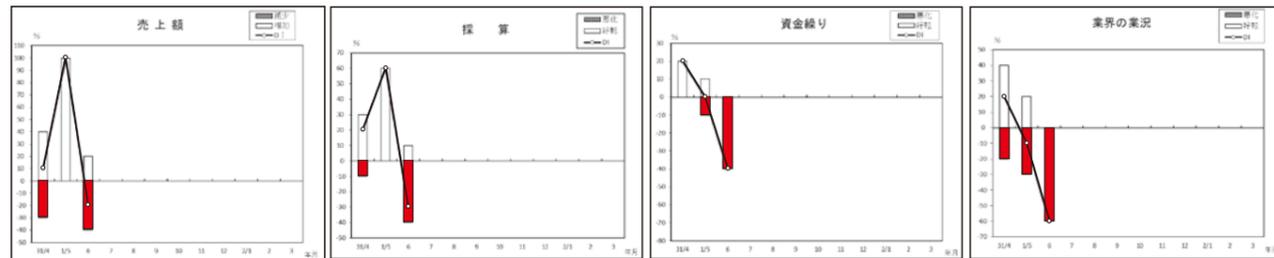
商業 一部商品に時期的な動きもあるも業界全体には影響が及ばない商業

商業は6月に入り、売上DIは低調ながら10ポイント改善したが、他の項目は全て悪化した。前四半期との比較では、同様に売上DIは6ポイント改善を示すが、他の項目はすべて横ばいであった。経営支援員からは、キャッシュレス対応に関するコメントも見られたが、高齢化高まる当地域のニーズはあまり高いとは言えず、導入しても必ずしも売上に結び付くとは限らないとの報告もあった。



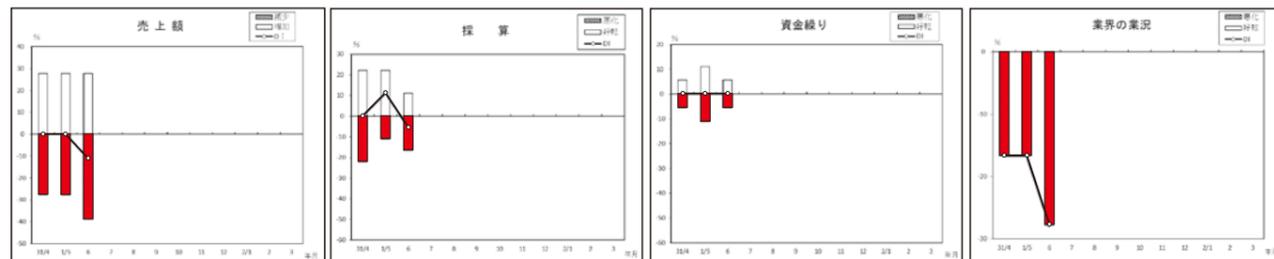
観光業 大型連休の恩恵受けるも業界全体への波及効果は薄い観光業

観光業は6月に入り、全ての項目で大きく悪化を示したが、前四半期との比較では、売上DIが20ポイント以上大きく改善した。その他の項目は全て横ばい。経営支援員からは、大型連休の特需消費を取り込み、売上を伸ばせたとの声が多く聞かれた一方で、連休後の反動も大きく、観光客が集中する時期の差が広がりつつあり、人材不足も重なって、恩恵が業界全体へ広がっていない業況であるとの報告があった。



サービス業(飲食店) 2期連続の改善から一転、原材料高騰等で採算悪化のサービス業

サービス業は6月に入り、観光業と同様全ての項目で悪化を示した。前四半期との比較でも全ての項目で1～9ポイント悪化した。経営支援員からは、季節要因・GW効果の恩恵を受け、売上を伸ばした一方で、原材料の高騰と人手不足が足かせとなって採算悪化を招いたとの報告があった。また、外国人の来店も増加傾向で、受入体制などで格差が広がりつつあるとの報告も見られた。

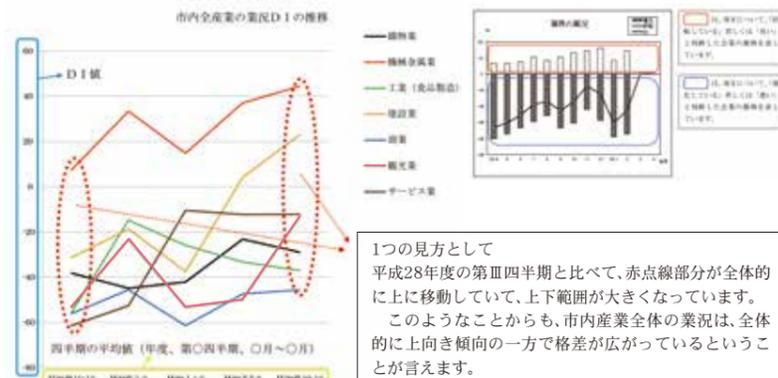


DI値とは DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。

もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)/減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。

グラフの見方



1つの見方として平成28年度の第Ⅲ四半期と比べて、赤点線部分が全体的に上に移動していて、上下範囲が大きくなっています。このようなことから、市内産業全体の業況は、全体的に上向き傾向の一方で格差が広がっているということが言えます。

※ご注意ください頂かなければならない点は、これらのDI値が「絶対」若しくは「正しい」というモノではありません。あくまでも感覚的な指標であり、参考数値(材料)の1つに過ぎないことをご承知下さい。

経営発達支援計画
令和元年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

個社ニーズ・事業承継等調査レポート 地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(平成31年4月～令和元年6月)

京丹後市商工会

個社ニーズ・事業承継等調査レポート

—労働環境調査(月給/賞与編)—

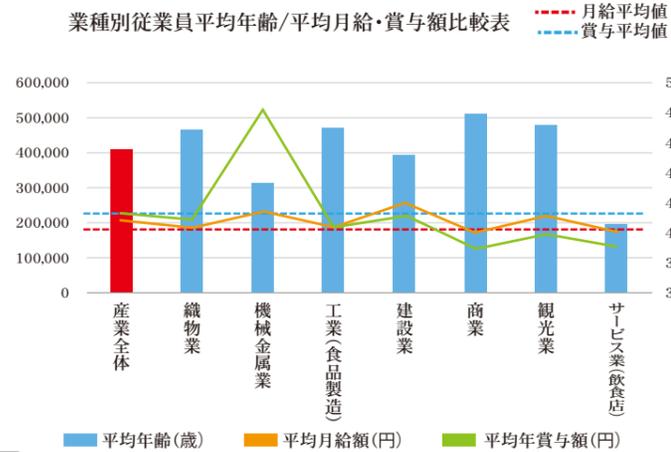
令和元年9月1日

<調査概要>

【調査目的】個社の労働環境を把握すると共に、地域経済動向調査を併せて実施することで、事業者との関わり頻度を増やし、支援ニーズに沿った施策活用提案など支援の依頼機会の創出を目的として実施するものです。

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件のうち、従業員を有している65社 【調査期間】2019年4月～8月【調査方法】当商工会経営支援員の巡回ヒアリングによる調査

業種	平均年齢(歳)	平均月給額(年間・円)	平均賞与額(年間・円)
産業全体	45.5	207,569	227,364
織物業	46.9	191,167	212,455
機械金属業	43.4	231,600	521,556
工業(食品製造)	47.0	190,833	192,667
建設業	45.2	258,434	225,085
商業	47.9	176,864	127,273
観光業	47.2	221,485	170,169
サービス業(飲食店)	40.7	177,000	137,778



<平均年齢>

昨年と比較して産業全体は+0.1歳。各産業内訳は、織物業-1.4歳、機械金属業+0.6歳、工業+0.4歳、建設業-0.8歳、商業+1.9歳、観光業+2.6歳、サービス業-2.0歳という結果になった。

<平均月給・年賞与額>

昨年と比較すると、産業全体で月給面では-414円、賞与面では-113,092円となった。

月給については、各産業別に若干の開きはあるものの、昨年と比較して横ばい若しくは微減となっている。

賞与については、各産業別に大きな開きがあり、その時期の業況によって支給額が変動している。また、支給額が0円の事業所は、昨年度8事業所であったのに対し、今年度27事業所と大きく増加(3倍以上)していることから、業種間や事業所間の格差が広がりつつあると推測する。

地域経済動向調査レポート—京丹後市版—

～一部の業種で改善見られるも、人手不足と貿易摩擦で足踏み状態の市内小規模企業～

令和元年9月1日

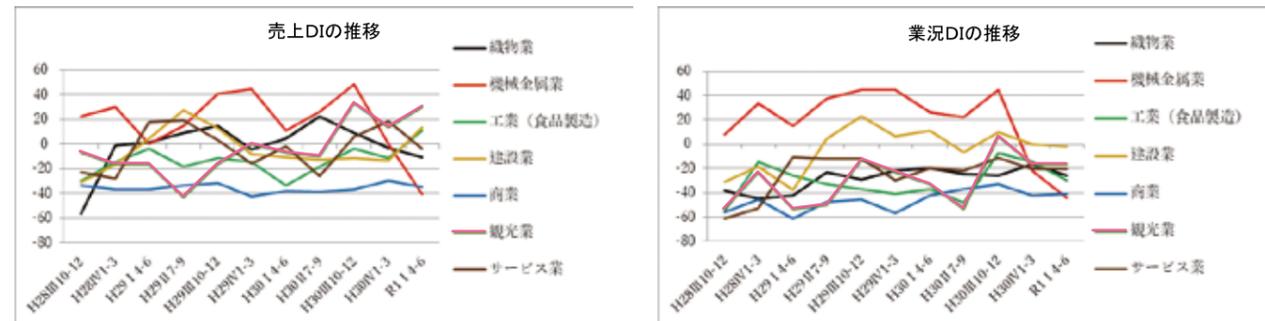
<調査概要>

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2019年4月～6月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

<産業全体> 一部の業種で改善見られるも人手不足と貿易摩擦で足踏み状態の市内小規模企業

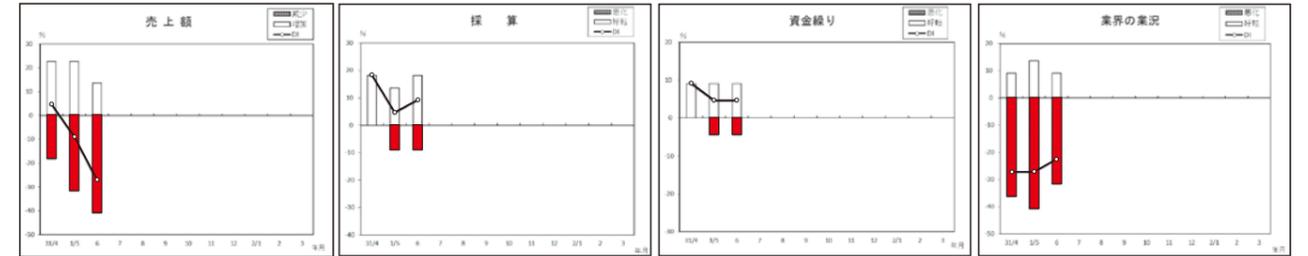
4月～6月の小規模事業者経済動向調査は、産業全体の採算・資金繰りDI(景気動向指数・前四半期対比)は1～3ポイント小幅改善示したが、売上・業況DIは3～5ポイント悪化した。慢性化する人手不足に加え、米中の貿易摩擦の影響を受け、これまで地域経済を牽引してきた機械金属業が大きく悪化に転じたことで、他の業種の業況感も足踏み状態となった。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

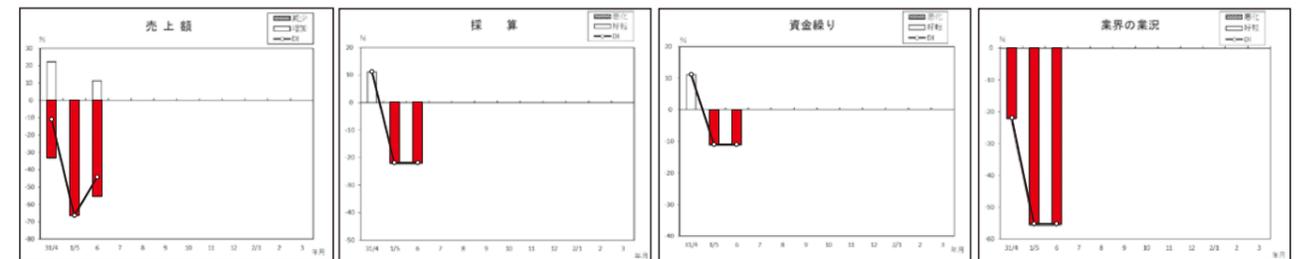
織物業 一部受注製品は利益率向上するも先行き不透明な織物業

織物業の売上DIは3ヶ月連続で悪化したが、他の項目は横ばい若しくは小幅に改善を示した。前四半期との比較でも、採算・資金繰りDIは5～9ポイント改善、売上・業況DIは6～9ポイント悪化した。市場が狭まる中、施策活用による利益率向上の経営努力が伺える。経営支援員からは受注製品によって明暗が分かれているが、何れにしても先行き不透明との報告があった。



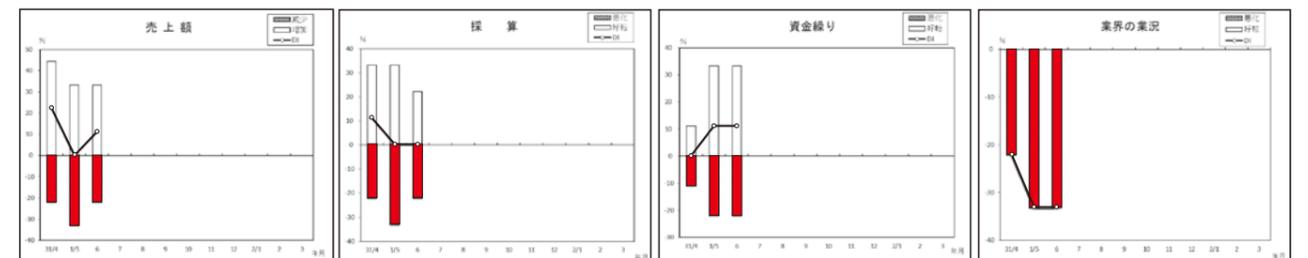
機械金属業 順調な受注続くも、米中・日韓貿易の影響懸念する声広がる機械金属業

機械金属業は5月に入り一転、全ての項目で大きく悪化を示した。全四半期との比較においても、全ての項目において7～11ポイント悪化した。昨年前半までは好調を呈していたが、全体的に徐々に悪化しつつある。順調に生産が続いているとの声が聞かれるも、米中・日韓貿易の影響を懸念する声や、中国製スマートフォンの生産抑制を受けて発注量が少なくなってきたとの報告があった。



工業(食品製造) 2ヶ月連続で改善するも、利益確保に苦慮する工業(食品製造)

工業(食品製造)は6月に入り、売上DIは10ポイントの改善。その他の項目は横ばいを示した。前四半期との比較では売上・採算・資金繰りDIは4～20ポイント改善した一方で、業況DIは15ポイント悪化した。経営支援員からは、原材料の高騰や食品表示対応によって利益確保が難しく、高価格帯と低価格帯の2極分化が進んでいるとの報告があった。



建設業 公需・復旧工事の工事量は潤沢も人手不足の影響著しい建設業

建設業は6月に入り採算DIは6ポイント改善、他の項目では6～20ポイント悪化を示したが、全四半期との比較では、売上・採算・資金繰りDIは6～20ポイント改善した。公需は予算の執行が始まり出始めたことや、民需では消費税前の駆け込み需要が発生しているとの明るい話題もあるが、全体的に熟練技術者を中心に人手不足感が依然と払拭されず業況は厳しい。

